

優
秀
賞

私の大好きな景色

鹿沼市立南押原中学校二年

塩澤 沙央理

私の住んでいるところは鹿沼市の南端で、林や田畑が広がる農村地帯です。関東平野の北の端で高い山々もなく、比較的に晴らしいところです。自宅の窓や校舎の二階からは、遠くまで広がる田んぼや畑を見渡すことができ、私の心を落ち着かせてくれます。近くにはあじさい祭りや有名な磯山神社の森や、日光西街道の並木も見え、学校の木々は四季で葉の色が変わります。その景色は森林と呼べるようなものではありませんが、気持ちが良く大好きです。

そんな地域に住んでいるため、買い物をする時は少し出かける必要があります。今年の夏休みは姉と母と三人で宇都宮に遊びに行きました。宇都宮はいろいろな商店とついでに近くにあったり、同じ建物にあたりして、とても便利で買い物もしやすいところが好きです。

「今日は何を買おうかな」「今日は何を食おうかな」と、時間が経つのを忘れるくらい楽しく過ごしている間、外の景色について深く考えることはありませんでした。建物の中の景色がすべてでした。

帰る時間になり、車のたくさん走る大きな通りや高いマンションの間を通って、自宅に近づくとついでに田畑も見えるようになり、いつも見ている木々のある景色へと変わりました。「やっぱりこの景色が好きだなあ」と感じました。緑が少ない町の景色と普段見ている景色との違いを改めて感じました。木々の緑があることで、こんなにも私の気持ちがほっとするのだと感じることができました。

窓から見える私の好きな景色には「まへら」「ひやき」「あじさい」「すけ

など、季節ごとに姿をかえる木や、いろいろな色の花が咲いて私たちを楽しませてくれる木があります。そんな、心をほっとさせてくれる木々は、何十年も前の人たちが、「建物の材料になるだろう」とか「少しでも子どもたちの木陰になったらいいな」とか「みんなの心が落ち着くだろう」などと考えて植えたのだと思います。そして、手入れを続けることで今に至った木々なのだと思います。昔の人の思いがこもった緑の景色がずっと残ってほしいと思います。これから先、何十年後の人もこの景色を見てほっとできたらいいなと思いました。

そのためには、今ある木々の手入れをする必要があります。日光西街道にはところどころに切り株があります。枯れてしまつて切り倒したあと、新しい苗を植えなかつたのではないかと思えます。私の小学校の校庭にあった大きなけやきの木も切り倒され、私の見なれていた大好きな景色も減り、とてもさみしくなりました。

新しい木々を植えたり、育てたりしていかなければならないと思います。私は木を植える手段も育てていく方法も手入れの仕方もしっかりしません。しかし、緑のある心温まる景色が大好きです。

今の私にできることは、まずこの景色を好きだという人を増やしていくことかもしれません。周りの友だちや、地域の人たちと同じ気持ちを持つことで、今ある景色が守られていくのだと思います。未来の子どもたちが、私のように外の景色を見て、心がほっとすることができるように。

